



<第97回 ほほえみの会 総会>

1995年以来9年目を迎えた「ほほえみの会」総会には56人が参加しました。

2002年度の活動報告、会計報告があり了承されました。また、役員改選では新役員立候補者を募りましたがいないため、昨年度役員に引き続きお願いすることになりました。よろしくお祈りします。

新役員 代表 池田恵一 副代表 渡辺真澄 村瀬彰子  
世話人 藤田妙子 杉山禎 鈴木啓之 堀内雅士  
会計 小嶋隆

総会では2人の方に講演をしていただきました。

▽ 「退院後のよりよい生活のために」 奈良先生

小児がんは不治の病から治る病気になってきた。そこで晩期障害も出る可能性がある。具体的には

化学療法－性腺機能、心筋障害、二次がん、肝機能障害  
放射線照射－成長障害、生殖器

退院後の生活での注意は

- ・ うがい、手洗い、入浴で衛生管理を行う
- ・ バランスの取れた食事
- ・ 学校、幼稚園への通学通園可能
- ・ 時機を見てプールも可能
- ・ 心理面でのサポートもしてあげる

▽ 特別講演「小児がん患児の遊び」

～アメリカの病院と日本の病院～

三重大大学付属病院 チャイルドサポート担当 李永淑さん

小児がん病棟で子供たちは、治療の痛さに加え、家族と離れて一人生活しておりストレスがいっぱい、遊びが必要。

三重大付属病院では李さんが中心となって三重大学生ボランティアグループ「よんちゃんず」(41人)を結成して活躍。

遊びは－「たこ焼き、ちぢみ、お好み焼き作り」

「プレイルームでのボウリング大会」

「お医者さんごっこ」(ボランティアが子供に診てもらう)

「夜のプレイルーム」(ゲーム大会)

「母のプレイタイム」(母親たちで大掃除やヨガ体操)

「お祝い隊」(仮装して誕生日の子のベットサイドへ行き

歌やクス玉割りをしてカードを渡す)

院外では「バーベキュー」「花火大会」

スケジュール表を作り子供に配布。子供たちは指折り数えてその日を待っている。ボランティア学生は「こんなにつらい治療中でも笑えるってすごい」と言う

遊びも大切な治療の一部、ということが医療者にも理解されるようになった。今後は遊びの活動の組織化、システム化を図りたい。「入院中の子供には遊びが必要」という新しい常識を医療現場に導入したい。

アメリカ ミシガン子供病院

チャイルドファミリーサービスが充実

患児だけでなく兄弟、家族との遊びも。兄弟も病棟に入れる。

チャイルドライフスペシャリストの職種、役割が確立されている。例えば、治療で右手に注射するときには、左手を使い、シャボン玉で遊ぶ。大きなシャボンを作るとき、大きな息を吐き出すとともに注射をする。リラックスできて治療もスムーズにいく。

日本とアメリカの違いは多くあるが、日本独自の子供サポートシステムを作りたい。

▽総会後の懇親会で「遊び」での保母さんの重要性が話題となり、病院長へ要望書を出すことになりました。

次回は 8月10日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k\_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>

※メールアドレスとURLを変更しました